



様々なテーマで、より専門的な内容を学んでいただける教養講座として、「最高最新の内容を分かりやすく」をモットーに開講しています。受講料は**840円**です。(京都まなびすと会員は**740円**です)※いずれも税込価格

アスニーセミナーの予約についてのお知らせ

各月の予約受付開始日をご確認ください。(京都アスニーホームページからもご予約いただけます。)

※耳の不自由な方対象の手話通訳・要約筆記をご希望の方は、開講日の10日前までにご相談ください。

留意点

- (1)受付は申し込み先着順です。開催日前日までにご予約ください。講座当日のインターネット予約も無効となります。
- (2)予約されたセミナーを欠席される場合はお早めにご連絡ください。無断キャンセルは他の方のご迷惑になりますので、固くお断りいたします。皆様のご協力をお願いいたします。
- (3)会場は、開催日当日、1階エレベーター前の掲示をご確認ください。当日の開始時刻を過ぎてもお越しにならない場合は、ご入場いただけない場合があります。あらかじめご了承ください。
- (4)定員の記載のないものは、先着350名。

4月・5月の講座予約は、**3月1日(金)午前10時から受付開始**

<p>4月19日(金) 14:00～16:00</p> <p>源氏物語とその時代背景 —前時代と同時代の人物との関わり—</p> <p>帝塚山大学 名誉教授 清水 婦久子</p>	<p>源氏物語は前時代の出来事を準拠として作られています。主人公光源氏は、嵯峨天皇の皇子・源融と醍醐天皇の皇子・源高明、菅原道真・在原行平などの人物を基にして造型されています。一方、同時代的一条天皇やその皇子、藤原道長とその娘たちも、物語の内容に深く関わっています。今回は、物語の内容と歴史上の人物との関わりについて具体的にお話しします。</p>
<p>4月26日(金) 14:00～16:00</p> <p>紫式部と近江・越前 ～平安女性が体験した琵琶湖旅路～</p> <p>淡海歴史文化研究所 所長/長浜市曳山博物館 館長 太田 浩司</p>	<p>今年のNHK大河ドラマは、『源氏物語』の作者紫式部の生涯を描く『光る君へ』です。紫式部・平安時代と来たら、さすがに近江とは無縁だと思われるかもしれませんが、ところが、式部の生涯を読み解くと、父の赴任地・越前との往復の途上、船上や街道において、琵琶湖岸や越前国府があった武生周辺の地を見聞しています。式部の近江から越前の旅を、彼女が詠んだ歌から探り、関連する史跡を紹介します。</p>
<p>5月10日(金) 14:00～16:00</p> <p>紫式部の恋 ～『源氏物語』作家として～</p> <p>京都先端科学大学 教授 山本 淳子</p>	<p>紫式部は藤原道長と恋仲だったとされていますが、その風聞は、紫式部が深夜、道長に局を訪問されたという『紫式部日記』の場面に端を発しています。果たして二人は思い合っていたのでしょうか？今回は『紫式部集』にも目を配り、紫式部の道長への気持ちを推測してみます。</p>
<p>5月17日(金) 14:00～16:00</p> <p>雷と雷雲が放つ不思議な光の謎を追い！</p> <p>京都大学大学院理学研究科 准教授 榎戸 輝揚</p>	<p>雷は身近な自然現象ですが、まだわからないことがたくさん残されています。この講義では、雷や雷雲から見つかったガンマ線という、エネルギーの高い光の観測を通して見えてきた、新しい雷の姿を紹介します。</p>
<p>5月24日(金) 14:00～16:00</p> <p>長屋王の実像</p> <p>奈良文化財研究所 都城発掘調査部 平城地区史料研究室長 馬場 基</p>	<p>圧倒的な王族の血筋を誇りながら、なぜ咲く花の匂う天平の奈良の都で「光れなかった」のか。「長屋王」という奈良時代初期の高級貴族について、「光る」ことができた藤原氏との対比を交えつつ、この疑問に迫ります。</p>
<p>5月31日(金) 14:00～16:00</p> <p>藤原道長 ～エピソード(逸話)から振り返る人物像～</p> <p>京都産業大学 日本文化研究所 上席特別客員研究員 小嶋 一郎</p>	<p>文化史・美術史の年代のひとつに「藤原時代」があります。政治年代では、平安時代中期から後期を指すのですが、この歴史用語の由来が藤原道長と頼通親子が築いた、摂関政治の絶頂期にあたります。飛鳥時代に、藤原鎌足を始祖とし、脈々と続く藤原氏の黄金時代を築いた道長という人物にスポットをあて、権謀術数渦巻く朝廷を、いかに渡り歩いたか、その人物像に迫ります。</p>

6月の講座の予約受付は、**4月10日(水)午前10時**から受付開始

<p>6月7日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>平賀源内の事蹟と9度目のブーム -最新の研究成果にもとづいて-</p> <p>大阪商業大学大学院 地域政策学研究所 教授/経済学部 教授 石上 敏</p>	<p>1780年の獄中死以来、社会が大きく移り変わる時期に源内ブームが訪れます。9度目のブームを迎えている現在、源内のどのような事蹟や評判が私たちの興味を惹いているのでしょうか。最新の研究成果にもとづいて報告いたします。</p>
<p>6月14日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>幕末京都の政治環境 -薩摩・土佐藩士、新選組の居場所と行動-</p> <p>京都産業大学文化学部 准教授/明治維新史学会 理事 笹部 昌利</p>	<p>幕末の京都はまさに政治動乱の場となりました。上京してきた藩士や浪士たちは、どこにいて、どこで政治活動に当たっていたのでしょうか。彼らを受容した場・空間の性格もふまえながら、薩摩藩、土佐藩、新選組の政治行動について再検討します。</p>
<p>6月21日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>仏教はなぜこれほど多様化しているのか</p> <p>花園大学文学部 特別教授 佐々木 閑</p>	<p>日本の仏教を見ると、様々な宗派があり、それぞれに違った教えを説いています。お釈迦様という一人の人物が創設した仏教が、なぜこれほどまでに多様化したのか。この「仏教多様化」の謎を、インドや中国にまで遡って歴史的に解明していきます。</p>

7月・8月の講座予約は、**5月8日(水)午前10時**から受付開始

<p>7月5日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>古代の鏡</p> <p>龍谷大学文学部 教授 杉山 洋</p>	<p>主に奈良時代の鏡の話をさせていただきます。古墳時代の鏡は権力の象徴として珍重されますが、奈良時代には姿見としての機能も見られるようになり、さらに多様な展開を遂げます。こうした多様性や製作技法を中心に、古代の鏡の存在に迫ります。</p>
<p>7月12日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>京都市平安京創生館企画展開連講座 みやこの変遷と都市計画 -平安京に至るまで-</p> <p>龍谷大学文学部 教授 國下 多美樹</p>	<p>日本の古代都城である「みやこ」は、飛鳥宮から平安京に至るまでどのように遷り変わったのでしょうか。考古学、文献史学の成果に学びながら、古代の都市計画という視点からこの問題を考えたいと思います。</p>
<p>7月19日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>公家の戦国時代</p> <p>京都橘大学文学部 教授 尾下 成敏</p>	<p>戦国時代を語る際、天皇に仕える公家たちは通常なら脇役的な位置に据えられます。また彼らが登場しないこともあります。今回の講演では彼らを主役的な位置に据えて、公家と戦国時代の文化、公家と戦国大名との関係を取り上げます。</p>
<p>7月26日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>福井の恐竜研究からわかる、恐竜の進化</p> <p>福井県立大学恐竜学研究所 助教 今井 拓哉</p>	<p>世界中の恐竜研究者が、恐竜の進化の過程を解き明かすために発掘を行っています。実は“恐竜王国”と呼ばれる福井の恐竜発掘でも、多数の重要な化石が発見されています。この講義では、恐竜の進化の謎に、福井発の最新研究から迫ります。</p>
<p>8月2日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>古今和歌集の和歌を読む</p> <p>大阪大学大学院 人文学研究科 教授 滝川 幸司</p>	<p>古今和歌集は、日本文学史上初の勅撰和歌集です。10世紀初頭に編纂された本集は、その後の文学に大きな影響を与えました。本講座では、いくつかの和歌を取り上げて読解します。その上で表現の特徴について考えたいと思います。</p>
<p>8月23日(金) 14:00~16:00</p>	
<p>イスラームの歴史的展開</p> <p>京都女子大学文学部 教授 谷口 淳一</p>	<p>今日の世界で四人に一人が信仰するイスラームという宗教を理解するために、7世紀のアラビア半島における創始から世界各地へ拡大していった歴史をたどりつつ、その教えの成立と展開を歴史学の視点から考えます。</p>

連続講座

連続講座の予約は、**3月1日(金)午前10時**から受付開始 1回ごとの受講も可能です。

<p>『平家物語』を読む</p> <p>京都大学 名誉教授 上横手 雅敬</p>	<p>5月13日(月) 6月10日(月) 7月 8日(月)</p> <p>14:00~16:00</p> <p>『平家物語』を時間をかけて精読します。関連して日本史上の重要事項を適宜取り上げます。京都で『平家物語』を読む利点も生かしたいと思います。今回は平重盛の死をめぐる諸問題を取り上げ、種々の観点から考察します。</p> <p>定員/200名 テキスト/『平家物語』上巻 佐藤謙三/校注(角川ソフィア文庫)定価:792円(税込)(販売あり)</p>
<p>古文書を読んでみよう</p> <p>同志社大学 嘱託講師 宇野 日出生</p>	<p>4月10日(水) 5月 8日(水) 6月12日(水) 7月10日(水)</p> <p>10:00~12:00</p> <p>①中世~近世の古文書を読む 1 ②中世~近世の古文書を読む 2 ③中世~近世の古文書を読む 3 ④中世~近世の古文書を読む 4</p> <p>定員/100名 テキスト/講読の古文書と解説は、毎回配布いたします。</p> <p>中世~近世の古文書を一点ずつ詳しく読み込んでいきたいと思っています。文字や読み方はもちろんですが、時代背景や差出人・受取人らの気持ちに至るまで、踏み込んでみたいと思います。古文書のもつ魅力を、皆さんと共に味わいたいと思っていますので、どうぞ気軽にご参加ください。心よりお待ちしております。</p>
<p>絵で読む『伊勢物語』</p> <p>関西大学 名誉教授 京都光華女子大学 名誉教授 山本 登朗</p>	<p>4月24日(水) 5月22日(水) 6月26日(水) 7月24日(水)</p> <p>14:00~16:00</p> <p>①いろいろな女性たち ②藤の花と布引の滝 ③竜田川 ④斎宮</p> <p>定員/100名 テキスト/『絵で読む伊勢物語』山本登朗/著(和泉書院)定価:1,650円(税込)(販売あり)</p> <p>『伊勢物語』の講座もいよいよ最終段階。とても有名な話や、あまり知られていない話、テキストに取りあげられていないけれどぜひ読みたい話は補助プリントで取りあげながら、この物語の多彩な世界をご紹介します。</p>
<p>平安時代の京都を歩く ~街並みと風俗を観察する~</p> <p>歴史学者 往還塾 塾長 五島 邦治</p>	<p>5月23日(木) 6月27日(木) 7月25日(木) 8月22日(木)</p> <p>10:00~12:00</p> <p>①朱雀門から羅城門へー柳桜をこきまぜてー ②神泉苑と御霊会ー籠の棲むところー ③内裏の内外ー桐壺更衣の通った道ー ④貴族の邸宅の内部ー小野宮邸ー</p> <p>定員/200名</p> <p>平安時代の京都の街は、現代の京都とは景観や人々の風俗がまったく違いました。そんな街を現代の私たちが歩いてみると新しい発見があるにちがひありません。大路小路の景観と風俗、宮殿・堂舎や庭園の内部、そしてそこに暮らす人々の生活まで覗いてみましょう。</p>

アスニー土曜プログラム講演会

アスニーセミナー連続講座『平家物語』を読む」200回記念特別講演

事前予約制

3月1日(金)午前10時 受付開始

第一部 13:30~14:30

講演「頼朝と義経」



上横手 雅敬
京都大学名誉教授

第二部 14:40~15:40

平曲演奏

曲目: 祇園精舎、敦盛最期、
那須与一、先帝御入水



荒尾 努
平曲弾き語り奏者

4/6(土)

13:30~15:40
(13:00開場)

会場 京都アスニー4階ホール(京都市生涯学習総合センター)

受講料 1,000円(税込) ※本講座は、「京都まなびすと」会員の割引対象外です。

定員 350名

申込方法 事前予約制

◆来館・電話・ホームページ申込:4月5日(金)まで

※事前予約制です。前日までにお申し込みください。

※定員に達した時点で、予約受付を終了いたします。

